

### 【今日の説教から】

家族愛、親子愛、夫婦愛、友愛、師弟愛、博愛…。愛という言葉を挙げればきりがありません。愛、それは辞書によれば、「いつくしみ合う心」「生あるものをかわいがり大事にする」

「いとしいと思う心。互いに相手を慕う情」

「好み、大切に思う気持ち」「個人的な感情を超越した、幸せを願う深く温かい心」などと書かれています。

それでは聖書は愛をどのように説明しているのでしょうか。

「愛は、神から出たもの」「神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされた」

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある」

聖書でいう「愛」とは、私たちの温かな心、優しい心を言う前に、始めに私たちに示された神の愛、罪ある人間のために贖いの供え物として、たった一人の神の御子を十字架につけて赦しを与えてくださったという、神様から出たものであると書かれています。

「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」とありますが、ここに愛の最大の模範があります。愛のオリジナルがあります。神から出たものである愛を知るには、神様からそれを教えていただく必要があり、それが御子による犠牲の愛だと聖書は語るのです。

皆様、おはようございます。今日にも梅雨明けの宣言が出そうですね。そしていよいよパリオリンピックが始まり、20日ほど続きます。

すでに梅雨明けの関東地方などでは、すでに35℃ほどの猛暑とか。皆様ぜひ熱中症にお気を付けください。また、コロナウイルスも、新しい株が発生し、高い感染力があるとのこと。ぜひお気を付けください。

ヨハネの手紙一を読み進めております。

先週の箇所では、このようにありました。

「4:1 愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。

4:2 あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ているものであり、

4:3 イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねて聞いていたが、今やすでに世にきている。

4:4 子たちよ。あなたがたは神から出た者であって、彼らにうち勝ったのである。あなたがたのうちにはいますのは、世にある者よりも大いなる者なのである。…4:6 しかし、わたし

私たちは神から出たものである。神を知っている者は、わたしたちの言うことを聞き、神から出ない者は、わたしたちの言うことを聞かない。これによって、わたしたちは、真理の霊と迷いの霊との区別を知るのである。」

惑わす霊によって翻弄され、引き寄せられ、罪に陥り、真理から逸れ、人生を誤る。こういう世の中の、惑わす霊の影響下にある生活から、世に打ち勝った御子による、真理の霊によって支えられる生き方、神から出た者、打ち勝つ者、世にある私たちの敵よりも強い方が私たちのうちに宿ってくださる、その方を信じ、頼って教えられ、実践する生活、世に勝った信仰、この中に生かされているということを御言葉から教えられてまいりました。

4:7 愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。

7節と11節には繰り返して「愛する者たちよ」との語り掛けがあります。今日の箇所は、愛にある生活への誘いがテーマです。

「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。」

家族愛、親子愛、夫婦愛、友愛、師弟愛、博愛…。愛という言葉を挙げればきりがありません。愛には様々な姿があります。私たちは皆、愛とはすばらしいものであることを知っていますが、しばしば世の中は愛の対極にあるような、希望のない現実に支配されているように見えることがあります。戦争、殺戮、犯罪、憎しみ、嫉妬、いじめ、格差社会、貧困。平和を作ろうとの長年の努力も、一瞬で崩れ去り、戦争へとなだれ込んでいく時があります。くりかえしくりかえし続けられる人間の起こす悲惨な業を見ますに、人間は互いに愛し合うことが出来るのだろうかと思ってしまう。それでは聖書は愛をどのように説明しているのでしょうか。

「愛は、神から出たものなのである。」

これにはハッとさせられます。私たちは自分の力で愛し合い、平和を作り上げようと思うのですが、その私たちの中にはやはり根源的には愛するという能力や材料は持ち合わせてはおらず、それらは神様から出ているものであるということです。その神様の愛を頂いて、そのオリジナルからの恵みと力を頂いて、私たちは愛することが出来るようになるのです。

「すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。」

全て愛する者は神から生まれた者。神様から生まれ、新たに生を受けるゆえ、私たちは愛す

ることが出来ます。そして愛を行う者は神様を知っています。

4:8 愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

愛は、神から出たものなので、神様を知ることなしには本当の愛は分かりません。神が愛だからです。愛を本当に求める人は、神様に至ります。なぜなら神様は愛だからです。愛を知らない人は神様も知りません。神は愛だからです。神様を知る人は愛がなんであるのかを知ることが出来ます。なぜなら神は愛だからです。私たちは、神様をこのような基準で知ることが出来ます。すなわちそこに愛があるかどうかということです。なぜなら神は愛だからです。また、私たちは神様を知る人かどうかを知る基準もっています。すなわちそれはその人に愛があるかどうかです。そのことによって本当にその人が神様を知る人かどうか分かります。なぜなら神は愛だからです。

4:9 神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

そして、神様の愛とはどういうものであるか、どういった水準のものであるかがここに記してあります。

「神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった」のです。

「生きるようにして下さった」ということは、私たちは生きることが出来なくなっていたことを意味します。生きられないということは、死にゆく身であった、死んでいるものであったということです。そのことはローマ書7章から8章に書かれています。

7:15 わたしは自分のしていることが、わからない。なぜなら、わたしは自分の欲する事は行わず、かえって自分の憎む事をしているからである。

7:16 もし、自分の欲しない事をしているとすれば、わたしは律法が良いものであることを承認していることになる。

7:17 そこで、この事をしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。

7:18 わたしの内に、すなわち、わたしの肉の内には、善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。なぜなら、善をしようとする意志は、自分にあるが、それをする力がないからである。

7:19 すなわち、わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行っている。

7:20 もし、欲しないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。

7:21 そこで、善をしようと欲しているわたしに、悪がはいり込んでいるという法則があるのを見る。

7:22 すなわち、わたしは、内なる人としては神の律法を喜んでいるが、

7:23 わたしの肢体には別の律法があって、わたしの心の法則に対して戦いをいどみ、そして、肢体に存在する罪の法則の中に、わたしをとりこにしているのを見る。

7:24 わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。

7:25 わたしたちの主イエス・キリストによって、神は感謝すべきかな。このようにして、わたし自身は、心では神の律法に仕えているが、肉では罪の律法に仕えているのである。

8:1 こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。

8:3 律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。

8:4 これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。

8:5 なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、霊に従う者は霊のことを思うからである。

8:6 肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである。

8:7 なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。

8:8 また、肉にある者は、神を喜ばせることができない。

8:9 しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。

8:10 もし、キリストがあなたがたの内におられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに生きているのである。

8:11 もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。

イエス様は弱い私たちを救うために、私たちが罪との縁を切ることが出来るように、そして

生きることが出来るように、私たちのために世に遣わされました。この神様の犠牲の愛により、神様はご自身の愛を明らかにしてくださいました。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

私たちが生きることが出来ないのは、私たちの罪のゆえでした。その罪のゆえに愛なる神様を知ることもできず、神様とのつながりをもすっかり失ってしまったものでした。私たちの方から神様を知り、神様を尋ね、神様の前に身を正して悔い改めて関係を結んでいただく努力をすべきでしたが、いけにえを捧げたり、律法を守ったりしてそう務めているはずでしたが、それは適わない努力でした。

ローマ 3:9 すると、どうなるのか。わたしたちには何かまざったところがあるのか。絶対にない。ユダヤ人もギリシヤ人も、ことごとく罪の下にあることを、わたしたちはすでに指摘した。

3:10 次のように書いてある、／「義人はいない、ひとりもない。

3:11 悟りのある人はいない、／神を求める人はいない。

3:12 すべての人は迷い出て、／ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、／ひとりもない。

3:13 彼らののどは、開いた墓であり、／彼らは、その舌で人を欺き、／彼らのくちびるには、まむしの毒があり、

3:14 彼らの口は、のろいと苦い言葉とで満ちている。

3:15 彼らの足は、血を流すのに速く、

3:16 彼らの道には、破壊と悲惨とがある。

3:17 そして、彼らは平和の道を知らない。

3:18 彼らの目の前には、神に対する恐れがない」。

神に対する恐れも感謝も尊敬もなく、神を恐れず、ただ自分の考えを曲げずに生きていた私たち人間のために、愛によって愛に応えるのではなくて、違反と反逆と傲慢と不遜と神を恐れない思いを持つ人間のために、神様は進んで贖いの供え物として御子をお遣わしになりました。ここに愛があるのです。

神様の愛は無条件の愛であり、立場を超えた愛です。赦すものと赦されるものの立場の逆転を伴った、ただ与える、ただ行動し、実行する、しかもこれ以上ない最上の犠牲を伴った、完全な愛です。神様が私たち反逆者である人間のために、ただ愛のゆえに、できうることす

べてを投げ出して私たちに尊く高価で大切な者、愛する者、失うに心堪えない者として愛し、御子の犠牲を賜った。ここに愛があるのです。

4:11 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。

神様はこのように、そのようにかくも尊く力強く、壮絶なまでの愛を私たちに現わされ、御子を捧げ、私たちに愛し求めてくださいました。このように神様が私たちに愛して下さったことをいつも心に留めましょう。そしてそのように愛して下さった神様の愛を私たちの愛のお手本として頂き、教えられて、教えられるだけではなくて、愛の実践をするものでありたいと願います。

4:12 神を見た者は、まだひとりもいない。もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。

天におられます神様を見た者はいませんが、私たちが御子イエス様を通して示された神の愛に生きるのならば、神様から出た愛の中におり、その愛を実践しているのなら、神様は私たちと共におられます。そして神様の愛が私たちのうちに完成されるのです。これもまた何という驚くべき教えなのでしょうか。

私たちは愛というものを求めつつも何が本当の愛であるのかを求め続け、手探りをして歩いてきました。そこに神様はこれが愛であるという決定版を私たちに示されました。それがわたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになったという事実です。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合ひましょう。どうやって愛するのかはイエス様のうちに示されています。

2 コリント 8:9 あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すな

わち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。

1 ペテロ 2:18 僕たる者よ。心からのおそれをもって、主人に仕えなさい。善良で寛容な主人だけにでなく、気むずかしい主人にも、そうしなさい。

2:19 もしだれかが、不当な苦しみを受けても、神を仰いでその苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせられることである。

2:20 悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。

2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

4:11 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。

4:12 神を見た者は、まだひとりもない。もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。

打ちにおられる神様が、その愛を私たちのうちに完成させてくださるように、私たちはただイエス様によって現わされた神様の愛の中におり、注意深くそれを見て、模範として、少しでも多くその模範の通りに実践したいと願うのです。その時に働かれるイエス様のお力とお働きを見せていただくことを楽しみにしながら、順風の中も、逆風の中も、進ませてもらいたいと願うのです。

4:7 愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「ここに愛がある」という世界、「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしに」なられた、という愛の世界、「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」という、神様から出ている愛を教えてくださいまして、ありがとうございます。愛の実践によって神様の愛が私たちのうちに全うされますように、どうぞ今週もお導きください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン